様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６３４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００５２９

研究課題名（和文）「放浪者」像の比較文学――「アメリカ」的物語の文化政治学

研究課題名（英文）A Comparative Study on Representations of Tramp/Hobo: Cultural Politics of American Narratives

研究代表者
中垣　恒太郎（Nakagaki, Kotaro）

専修大学・文学部・教授

研究者番号：８０３５０３９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：アメリカの広大な国土を移動する物語がアメリカ大衆文化の原風景を作り上げてきた。時に体制や規範に抗う放浪者たちの姿はアメリカの精神文化の支柱を成している。「ホーボー」は元来「渡り労働者」を指す言葉であり、世紀転換期から1930 年代にかけて、鉄道の拡張、テクノロジーの発展による労働環境の変化、不況を背景として社会現象と化していたが、1960年代以降の表象においては労働の描写が抹消され理想化された姿で復活を遂げる。19世紀中庸に出現する「放浪者」（tramp）との連関、ヴァガボンド、ボヘミアン、フラヌール、瘋癲などの概念をも参照し、アメリカ大衆文化における放浪者表象を比較文学の見地から展望する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
21世紀現在も放浪者に対する憧れや理想が投影された物語が新たに生成され続ける一方で、グローバリズムの拡大に伴い、コーポレーション化が進む産業構造の中で、低コストを可能にする労働力として不法移民たちが機能している現実もある。「トレーラーハウス」と称される車に居住して生活を営む生活困窮者層は現在も一定数存在が確認されており社会問題と化している。連邦政府機関「移民・関税執行局」（ICA）による「不法移民」摘発を強化したトランプ政権の転換以降、移民労働者をめぐる状況も様変わりした。アメリカ大衆文化における放浪者表象を比較文学の見地から考察することにより、アメリカの社会構造上の問題も浮かび上がってくる。

研究成果の概要（英文）：This research project examines the transition of the hobo as a cultural icon in American popular culture, focusing especially on the early stage, from the 1880s to the 1940s, and how images of both the tramp and the hobo developed out of the narratives of Mark Twain (1835-1910) and Charlie Chaplin (1889-1977). With the rise and spread of large-scale transportation methods, the concept of the hobo, often depicted in the persona of the migrant worker, emerged in the latter-nineteenth century. Both terms tramp and hobo (and the distinction between them), were in common usage during the period. Referred with these historical research or American studies, my project analyzes representations of hobo/tramp as cultural materials through literary critical approaches.

研究分野：比較文学

キーワード：ホーボー　ヒッピー　放浪者　対抗文化　精神文化　ヴァガボンド　ボヘミアン　瘋癲

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

移民排斥などの排外主義、白人至上主義の反動的揺り戻しが「トランプ現象」を引き起こし、アメリカの分断が加速している。多民族多文化社会としてのアメリカの理想像を否定する傾向であり、人種、階級、地域差、思想信条など多様な層が棲み分けによってかろうじて成立してきたアメリカの現実と問題点とを浮き彫りにしている。そもそも「アメリカ人」とは誰であるのか、アメリカとはどのような国家であるのかをあらためて問い直す機運が高まっている。放浪者たちは今どのようにアメリカを見つめ、どこに向かっているのだろうか。

現在もなお、アメリカをめぐる物語には放浪者たちの姿があふれている。ライフ・ラーセン（1980- ）による小説『T・S・スピヴェット君傑作集』（2009）は、アメリカ北西部のモンタナ州に住む 12 歳の天才少年が親に内緒でワシントン DC にあるスミソニアン協会を目指す冒険物語である。少学二年生の時に学校で読み聞かせてもらったホーボーの物語に触発され、少年は長距離貨物列車に飛び乗り西部を移動する計画を立てる。大恐慌時代の西部の光景と歴史に想いを馳せながら少年は憧れのホーボーを追体験する。

一方、ソニア・ナザリオ（1960-　）によるノンフィクション小説『エンリケの旅』（2006）はメキシコを横断する貨物列車にただ乗りして国境沿いまで移動し、命がけでリオ・グランデ川や砂漠を越えてアメリカを目指す中南米の少年たちを取材したルポルタージュである。筆者自身も「死の列車」と称される同じ航路を辿る。走り始めた列車に飛び乗る危険な行為によって肢体を、場合によっては命をも失ってしまうほどの事故も少なからず起きている。人身売買やギャングなどの存在も含め、彼らを取り巻く貧困・暴力の闇は根深い。

この 2 作品は、もともとは「渡り労働者」を指す「ホーボー」像が 21 世紀になおもアメリカ文化に様々な形で継承されていることが伝わる格好の例となる。ともに長距離貨物列車への無賃乗車を試みる少年たちを描いた物語であるにもかかわらず、まったく正反対の状況を反映している。つまり、すでに失われた光景に対する憧れを描いた物語世界と、過酷な世界に生きる違法移民労働をめぐる社会問題との間の圧倒的な格差がここに示されている。放浪者をめぐる物語は本質的にアメリカの理想と現実の表裏一体をなすものである。自由を目指すロマンと現実との間に生じるギャップこそがアメリカ独自の物語を生み出してきた。『旧約聖書』「約束の地」の概念を新大陸アメリカの夢に重ね合わせてきた背景からも、アメリカは移動を伴う物語が豊富に発展してきた歴史を有する。映画における移動の物語は「ロード・ムービー」と称され、広大なアメリカの大地を舞台に、鉄道や車などの交通機関の発展にあわせて描かれ続けてきた。さらに、文学や音楽なども交えた「ロード・ナラティヴ（移動をめぐる物語）」の系譜を捉え直すことによりアメリカの精神文化史をも展望する。

２．研究の目的

ホーボー像の変遷を通してそれぞれの時代に込められたアメリカの理想の姿が見えてくる。そして、その背後に潜むそれぞれの時代の渡り労働者たちの姿や階級の問題に焦点を当てることで、分断が進む 21 世紀現在のアメリカが抱える課題もまた浮かび上がってくる。さらに、ヴァガボンド、ボヘミアン、フラヌール、瘋癲などの概念をも比較考察し、映画・音楽を含めたクロスメディア研究を通してアメリカ大衆文化の源泉としての放浪者像の精神文化史を展望する。歴史研究、メディア研究を援用することで独創的な比較文学研究の提唱を目指す。

３．研究の方法

「ホーボー」は元来、仕事を求めて流浪する「渡り労働者」を指す言葉であり、世紀転換期

から 1930 年代にかけて、鉄道の拡張、テクノロジーの発展による労働環境の変化、不況などを背景として社会現象と化していた存在であった。その後、社会現象としてのホーボーが姿を消していくのと前後して 1960 年代以降、大衆文化の中で理想化された姿で復活を遂げる。列車の無賃乗車をくりかえしながら働き口を求めていたホーボーたちであったが、1930 年代後半頃からは「自動車トランプ（放浪者）」と称される「渡り労働者」も現れるようになる。21 世紀現在、ホーボーの末裔たちは鉄道の周囲ではなくハイウェイ沿いに存在し続けている。

本研究課題ではアメリカ大衆文化におけるホーボー像の変遷を概観し、それぞれの時代思潮を比較文学の見地から検証する。たとえば、1960 年代から 70 年代にかけて文化的アイコンとしてのホーボー像が確立されていく代表作として、映画『北国の帝王』（*Emperor of the North Pole*, 1973）を挙げることができる。仕事を求めて列車の無賃乗車で放浪を続ける「北国の帝王」と呼ばれる伝説のホーボーと、無賃乗車の犯人を追い払うことに命を賭ける車掌との対決を描く物語である。労働現場の場面は省かれており、その代わりに哲学者・詩人としての新しい側面が付与されている点は注目に値する。『北国の帝王』はジャック・ロンドン（1876-1916）による自伝小説『ジャック・ロンドン放浪記』（*The Road*, 1907）に依拠しており、1933 年の大不況期に時代を置き換え、自然に知悉し定住先を持たない「哲学者」の様相が強調される形でホーボー像が再創造されている。ロンドンの記述では、溜まり場をめぐるホーボーたちの身の上話やほら話、土地を失った農民、浮浪児の姿などが描き込まれており、20 世紀前半の渡り労働者たちの実態が浮かび上がる。『ロンドン放浪記』は気の向くままに運命に任せて放浪する開放感に魅力があるが、労働を含む移動者を指すホーボー定義からすれば、仕事探しをせずにもの乞いをしながら放浪するその体験は「ホーボー」ではなく、「放浪者」（tramp）とみなしうるものである。概念や用語が定着する狭間の時期ならではの混同であるのだが、むしろ重要なのは、ホーボー文学の最初期に位置づけられる作品においてすら、語義としては労働を必然的に伴うはずのホーボー概念の揺らぎが示されていることである。労働の描写が抹消されていくホーボー像の変遷過程を再検証する。

４．研究成果

コロナ禍により当初計画していた国際学会での研究発表や、米国での実地資料調査が遅れてしまい研究機関を１年間延長した。そのことにより最終年度となる 2022 年度には、数件の国際学会での研究発表および実地調査を行うことができた。その成果は各論の形での発表を準備中である。

また、これまで取り組んできた「アメリカの放浪者」研究を継承・発展させながら、本研究課題を主題に据えた単著での成果刊行を現在準備中である。「放浪者」研究においては、いわゆる「高等遊民」として放浪を選び取った者たちや、美化された物語上の表象に注目してきたが、ジェイムズ・エイジーなどを含むノンフィクション文学にも注目し、疎外されてきた層を「アメリカ的」物語がどのように扱ってきたのかをも探る。

本研究課題に取り組む中で、「アメリカ」的物語が 21 世紀現在どのような状況にあるのか、また、その系譜を建国の理念の形成期の言説史に遡るならば、どのように系譜を辿ることができるのかという関心が育まれ、アメリカのナショナルな文学史を「疎外された層」の視点、および「世界文学」の見地から捉え直す新たな研究課題に発展させる形で検討を継続していく。

さらに、ヨーロッパ、中南米、日本、アジアなどのそれぞれの「疎外された者たち」の表象との比較文学研究に向けた基盤作りを目指す。ノンフィクション、ドキュメンタリー領域における表象文化、さらに人類学などの学際領域をも随時比較参照する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中垣　恒太郎	４．巻 20
２．論文標題 トウェインをめぐるマルチメディア時代の大衆文化受容	５．発行年 2021年
３．雑誌名 マーク・トウェイン――研究と批評	６．最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中垣　恒太郎	４．巻 52
２．論文標題 「リアリティ TV」以降のドキュメンタリー表現の変容 ――モキュメンタリーにおける「リアリティ」の創出	５．発行年 2022年
３．雑誌名 専修大学人文科学年報	６．最初と最後の頁 23-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中垣　恒太郎	４．巻 20
２．論文標題 トウェインをめぐるマルチメディア時代の大衆文化受容	５．発行年 2021年
３．雑誌名 マーク・トウェイン　研究と批評	６．最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中垣　恒太郎	４．巻 12
２．論文標題 民衆のたましい――アメリカ民衆文化の想像力と「普通のアメリカ人」の行方	５．発行年 2019年
３．雑誌名 多民族研究	６．最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中垣　恒太郎	4．巻 2
2．論文標題 グラフィック・メディスン研究――「情報」と「情動」をつなぐ視覚表現メディア文化	5．発行年 2019年
3．雑誌名 DNP文化振興財団　学術研究助成紀要	6．最初と最後の頁 98-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 中垣　恒太郎
2．発表標題 「放浪者たちのアメリカ――Tom Joadの亡霊たちの行方」
3．学会等名 第93回日本英文学会全国大会シンポジウム「Labor Diaspora／Labor Mobility――アメリカ文学における移動と労働」
4．発表年 2021年

1．発表者名 中垣　恒太郎
2．発表標題 「『アメリカ人』概念の行方――『分断』の時代とプア・ホワイト層の表象」
3．学会等名 欧米言語文化学会第13回年次大会シンポジウム「人種・民族」
4．発表年 2021年

1．発表者名 中垣　恒太郎
2．発表標題 トウェインをめぐるマルチメディア時代の大衆文化受容
3．学会等名 日本マーク・トウェイン協会
4．発表年 2020年

１．発表者名 中垣　恒太郎
２．発表標題 放浪者像の比較文学――アメリカ大衆文化の原風景を探る
３．学会等名 日本比較文学会東京支部１月例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中垣　恒太郎
２．発表標題 Souls of People: Steinbeck’s Cultural Legacy in Japanese Popular Culture
３．学会等名 Steinbeck and the Twenty-First Century: Identity, Influence, and Impact（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中垣　恒太郎
２．発表標題 Visualizing Mental Illness and Gender/Sexual Identity in the Cultural Tendency of Japanese Medical Manga
３．学会等名 Comics and Medicine in Brighton Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中垣　恒太郎
２．発表標題 New Hollywoodの文化的遺産――アメリカン・ロード・ナラティヴの系譜
３．学会等名 新英米文学会第50回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中垣　恒太郎
２．発表標題 「時間旅行小説」としての『スローターハウス５』
３．学会等名 日本アメリカ文学会東北支部12月例会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計10件

１．著者名 日本グラフィック・メディスン協会編（責任編集を担当）	４．発行年 2021年
２．出版社 SCICUS	５．総ページ数 344
３．書名 『日本の医療マンガ50年史』	

１．著者名 深瀬有希子・常山菜穂子・中垣恒太郎編	４．発行年 2021年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 612
３．書名 『ハーレム・ルネサンスーー＜ニュー・ニグロ＞の文化社会批評』	

１．著者名 新・アメリカ文学の古典を読む会（分担執筆）	４．発行年 2021年
２．出版社 松籟社	５．総ページ数 288
３．書名 『物語るちから――新しいアメリカの古典を読む』	

1．著者名 植月惠一郎・奥井裕・ 野村忠央・大森夕夏・加藤良浩・近藤直樹・藤原愛編（分担執筆）	4．発行年 2022年
2．出版社 金星堂	5．総ページ数 636
3．書名 『多次元のトピカー－英米の言語と文化』	

1．著者名 森有礼・中垣恒太郎・山口善成・水口陽子・森岡隆・渡辺真由美	4．発行年 2021年
2．出版社 松籟社	5．総ページ数 267
3．書名 物語るちから――新しいアメリカの古典を読む	

1．著者名 深瀬有希子・常山菜穂子・中垣恒太郎編	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 580
3．書名 ハーレム・ルネサンス－＜ニュー・ニグロ＞の文化社会批評	

1．著者名 日本グラフィック・メディスン協会（中垣恒太郎責任編集）	4．発行年 2021年
2．出版社 さいかす	5．総ページ数 344
3．書名 日本の医療マンガ50年史 -マンガの力で日本の医療をわかりやすくする	

1．著者名 中垣恒太郎、山内圭、久保田文、中島美智子編	4．発行年 2019年
2．出版社 大阪教育図書	5．総ページ数 419
3．書名 スタインベックとともに　没後50周年記念論集	

1．著者名 中山悟視編、中垣恒太郎（分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 328
3．書名 ヒッピー世代の先覚者たち　対抗文化とアメリカの伝統	

1．著者名 杉野健太郎編、中垣恒太郎（分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 三修社	5．総ページ数 360
3．書名 アメリカ文学と映画	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関